［歴史を感じる］奈良観光の魅力の屋台骨

県内には、これまで13の道の駅があった。この4月、14番目に大和平野の真ん中の国道24号沿いに誕生したのが「レスティ唐古・鍵」。歴史好きの人なら、地名でピーンとくるはずだ。そう「唐古・鍵」は、弥生時代を代表する大規模な環濠集落遺跡として、平成11年に国史跡に指定された場所なのである。教科書にも登場する復元楼閣は道の駅のすぐ東側、横断歩道を渡った「史跡公園」（面積約10万7800平方メートル）の中にある。なお、「レスティ」はイタリア語で「遺跡」の意味。3階の展望エリアは、大和盆地の眺望がよく、お薦め。

新鮮な農産物、黄金の生食パン、100円歯ブラシなどが売りだが、「歴史が学べる」という点は、よそにはあまりない、奈良らしい魅力だろう。なお、県内では今年度、近鉄吉野線・飛鳥駅前（国道169号）にも道の駅「飛鳥」が開業を目指している。

直近の話題では、鉄道に関する2つの「100周年行事」から。

一つは、大和平野を東西に横切る「近鉄田原本（たわらもと）線（旧・大和鉄道）」開業の100周年行事。1918（大正7）年4月26日、前身である大和鉄道株式会社が田原本（現・西田原本）駅から新王寺駅間で運輸営業を開始した。沿線の5町（王寺、河合、広陵、三宅、田原本）では、7月28・29日の両日、様々なイベントを開催する。既に復刻塗装第一弾の電車も運行中で、単線区間で、対向列車の行き違いも多いが、のんびりとした電車の旅を満喫できるのは〃乗り鉄〃にはお薦めだ。

もう一つは、日本初のケーブルカーとして18年8月29日に開業した生駒鋼索鉄道株式会社による「生駒ケーブル」。鳥居前駅―宝山寺駅間（約0・9キロ）を結ぶ「宝山寺1号線」で、近郊の商人たちからの信仰が篤く、開業翌年の年間輸送客数は144万人を超えたという。このように「歴史を感じる」、それが奈良観光の魅力の大きな柱である。

奈良新聞社編集委員・出版課長　辻　恵介

写真左：田原本町内に４月にオープンした「レスティ唐古・鍵」の外観
中央：唐古・鍵遺跡史跡公園。後方中央の建物が復元楼閣
右：「近鉄田原本線（旧・大和鉄道）」開業１００周年に合わせて運行中の復刻塗装列車